



市看×いちかん ちいき通信 2014年 冬号 2014年12月10日 発行

今号の内容



- P1. 共に創るコミュニティケア
・COC コラボ教育
 ピックアップ
- P2～3. COC フォーラム
・地域の顔
 (竜が台地区
 高橋千栄子さん)
- ・行政の地域づくり・
 健康づくり
 (北須磨支所保健福祉課長
 後藤靖さん)
- ・コラボ教育での学び
 (2回生 島田和史)
- ・COC研究ひろば 第1回
 (学長 鈴木志津枝)
- P4. 活動予定

“いちかん” (い) 一緒に、(ち) 地域づくりについて、(かん) 考える をコンセプトにしています。

共に創るコミュニティケア

神戸市看護大学地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子

社会におけるネットワーク、信頼、規範や凝集性といった特性を表す、「社会資本（ソーシャル・キャピタル）」と健康との関連は、1990年代以降、国際的に注目を浴びてきました。わが国でも2013年に国の健康政策である「健康日本21 第2次」に、このソーシャル・キャピタルの醸成が目標として掲げられるようになりました。まさに健康づくりのカギは、「地域づくり」にあるといえます。

このたび創刊されることになりました本紙では、本学「地（知）の拠点整備（COC）事業」の活動報告以外に、地域住民の方、協力自治体、そして本学の教員と学生が、それぞれの立場で「地域づくり・健康づくり」に関する記事を掲載する、「COC フォーラム」を設けました。

本紙標題の「市看×いちかん ちいき通信」の「市看（いちかん）」は、本学の略称（愛称?）。そして「いっしょ（一緒に）に、ちいき（地域）づくりについて、かんがえる（考える）」のコンセプトを略した「いちかん」をかけあわせることで、本学が地域の健康づくりの活動拠点となることを願い、命名しました。この紙面を通して、官学民がつながり、ソーシャル・キャピタルが醸成され、「共に学び 共に創るコミュニティケアの拠点づくり」の実現を目指していきたいと思います。「市看×いちかん ちいき通信」発進（発信）にあたり、皆様の地域づくりにかける熱いメッセージをお伝えしていきます。

COCコラボ教育ピックアップ～2014年秋実施分から～

地域住民の暮らしを理解できる看護人材の育成を目指し、住民の皆様には授業協力者として参加いただく「コラボ教育」を実施しています。今号では10月に行われた基礎看護技術演習Ⅰ（1年生）、「睡眠を見直そう！ 休息・睡眠を促す援助：生体リズム、生活リズム」をご紹介します。15名の住民の皆様にご協力いただき、生活リズムや睡眠について、学生と住民参加者のそれぞれの違いについて意見交換を行いました。写真は意見交換の様子です。「とても有益でしたし、若い方の生活がよくわかりました」「若い学生さんたちに囲まれて、何歳か若返ったような気がします。睡眠時間が平均より短いのに気がきました」と住民参加者の声。「同じ睡眠時間をとっている人がいても、人それぞれ違うリズムがあるとわかりました」「年を重ねるごとに、睡眠時間やサイクルが変わると知りました。自分の生活をみつめ直す良い機会になりました」と学生からの感想があり、生活リズムについて考える有意義な演習となりました。次回からも続けてご紹介しますのでお楽しみに。

(神戸市看護大学地域連携教育・研究センター助教 石井久仁子)